Innovative antibody therapeutics for companion animals

事業計画及び
成長可能性に関する事項

MabGenesis株式会社

2026年11月

CONTENTS

01 | 会社概要

02 | 事業領域

03 | 市場環境

04 | 基盤技術

05 | 事業計画

06 | Appendix



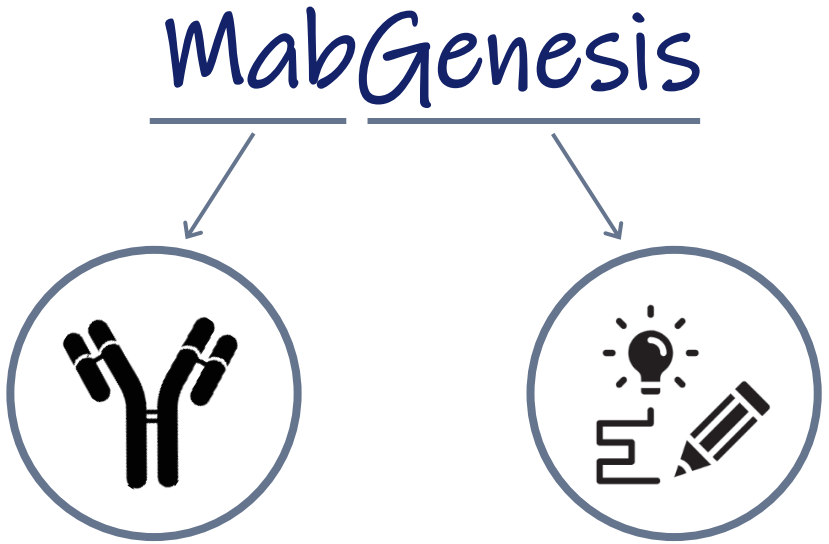
01 About MabGenesis

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

国内初のペット用抗体医薬品にフォーカスした創薬企業

MabGenesis
Expand druggable space

会社名	MabGenesis株式会社
設立日	2019年6月3日
本社所在地	神奈川県横浜市港北区新横浜3-7-18
事業所（研究部門）	愛知県名古屋市千種区不老町（名古屋大学内） 宮崎県宮崎市清武町木原5200（宮崎大学内）
経営陣	代表取締役　新庄　勝浩 取締役　小泉　信一 取締役　前田　龍 社外取締役　河合　昭好 社外取締役　山口　時男 常勤監査役　工藤　利秋 監査役　初澤　寛成 監査役　西井　大輔
従業員	14名（2026年3月末現在）
資本金	9,000万円（2026年3月末現在）
事業概要	医薬品の研究開発



About MabGenesis（マブジェネシス）

30年以上にわたる国内アカデミアによる抗体研究を実用化し、ヒト及び動物領域において抗体医薬品開発に必要な高品質モノクローナル抗体を提供

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.



MISSION

疾病に苦しむ伴侶動物と人々の症状の緩和と生活の質向上を実現する

MabGenesis株式会社は
日本アカデミア発世界最高レベルのファージディスプレイ抗体技術を用いて
ペット用抗体医薬における新たな可能性を切り開きます

CORE VALUE

INTEGRITY

– 業務、データ、同僚、顧客に対して誠実に向き合う

INNOVATION

– 今後必要とされる製品、常に効率的プロセスを追求し、改善を重ねる

CHALLENGE

– 常識、先例にとらわれず、率先して思考、行動する

ENVIRONMENT and ETHICS

– 環境に優しいバイオ医薬品、
動物を利用しないファージディスプレイ技術の可能性を追求する

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

業界経験豊富なプロフェッショナルによるマネジメント・技術チーム

MabGenesis
Expand druggable space



新庄 勝浩

代表取締役
獣医師　獣医学博士
MabGenesis共同創業者

- College of Veterinary Medicine, Cornell Universityでvisiting fellowとしての基礎研究実績
- 神戸大学客員教授
- 30年に及ぶ、グローバル製薬企業及び国内製薬企業でのヒト及び動物用医薬品研究開発と組織マネジメントの経験と実績



小泉 信一

取締役　事業推進担当
理学博士
MabGenesis共同創業者

- 米国NIHでpostdoctoral fellowとしての基礎研究実績
- グローバル製薬企業の創薬研究所で生物部門のヘッドを歴任
- バイオスタートアップ共同創業者、最高科学責任者の経験
- ㈱AskAt、㈱坪田ラボ　取締役（現任）
- 千葉大学客員教授（現任）



前田 龍

取締役執行役員
研究開発担当
理学博士

- 米国立癌研究所、理化学研究所での基礎研究実績
- 国内製薬企業で抗体医薬品の研究開発を主導
- 抗体医薬品上市の経験実績を持つ

黒澤 仁

最高技術責任者
理学博士
MabGenesis共同創業者

抗体・免疫関連科学技術の専門家
- MedImmune（Cambridge, UK, アストラゼネカグループ）, visiting scientist
- 藤田医科大学国際再生医療センター講師
- 名古屋大学特任講師（現任）

森下 和広

医学専門家
医学博士
MabGenesis共同創業者

日本を代表する血液がん専門家
- St Jude Children's Research Institute, Dept of Biochemistry, faculty member
- 米国NIH-NCI Frederick Cancer Institute, postdoctoral fellow
- 宮崎大学医学部教授
- 宮崎大学医学部客員教授（現任）

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

アカデミア発の抗体取得技術を社会実装する目的で設立

MabGenesis
Expand druggable space

設立背景 藤田医科大学及び宮崎大学で培われたファージディスプレイ抗体技術に関するノウハウを、動物用抗体医薬品の創出に応用した企業として設立

1990

革新的抗体取得技術の開発に成功

黒澤良和教授（元藤田医科大学学長）が30年以上にわたる抗体研究の結果、革新的ファージディスプレイ抗体の基盤技術を開発

2008

技術の実用化に向けた発展

NEDO, AMED, JST等のサポートを受け、森下和広教授（宮崎大学、当時）・黒澤仁講師（藤田医科大学、当時）が高機能ファージディスプレイ抗体技術を発展、確立

2019 -

基盤技術を事業化

革新的抗体ライブラリー作製技術を活用し、動物及びヒトの抗体医薬品創出を目的として当社設立、2020年から操業開始

事業開始後は欧米をはじめとする世界各国の大手製薬会社と共同研究契約を締結し、豊富なパイプラインを実現

2020年
- **2020年9月** イヌ抗体事業開始

2021年
- **2021年2月** 仏Ceva Santé Animaleとの共同研究契約を締結
- **2021年4月** 宮崎大学に共同研究講座を開設
- **2021年11月** ネコ抗体事業開始
- **2021年12月** 独Boehringer Ingelheim Animal Healthとの共同研究契約を締結

2022年
- **2022年11月** 名古屋大学に産学協同研究講座を開設

2023年
- **2023年4月** 共立製薬(株)との共同研究契約締結

2024年
- **2024年4月** 仏Ceva Santé Animaleとの譲渡契約締結
- **2024年12月** 米MSD Animal Healthとの共同研究契約締結

2025年
- **2025年2月** 仏Virbacと譲渡契約締結
- **2025年4月** 仏Ceva Santé Animaleとの共同研究契約締結
- **2025年9月** 日本曹達(株)との共同研究契約締結

2026年
- **2026年3月** 仏Ceva Santé Animaleとの提携を拡大
- **2026年3月** 日本曹達(株)との譲渡契約を締結

（注）ファージディスプレイ抗体技術：実験動物を用いない遺伝子組換えによる抗体作製技術

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

CONTENTS

01 | 会社概要

02 | 事業領域

03 | 市場環境

04 | 基盤技術

05 | 事業計画

06 | Appendix



02 Business Field

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

抗体医薬品とは

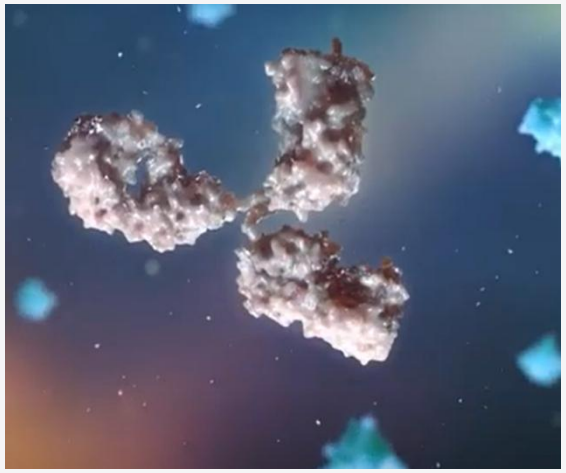
抗体医薬品のメカニズム

MabGenesis
Expand druggable space

抗体とは全ての動物種に備わる生体内防御分子であり、体内に侵入してくる多種多様な異物に対して特異的に結合・排除するために働くタンパク質のことを指す

抗体医薬品はバイオテクノロジーを応用し作製した抗体（モノクローナル抗体）を体内に投与し、抗体が疾患の原因となるガン細胞、サイトカイン、ウイルス等の標的分子を選択的に認識し作用することで、治療効果を発揮する

Antibody - 抗体

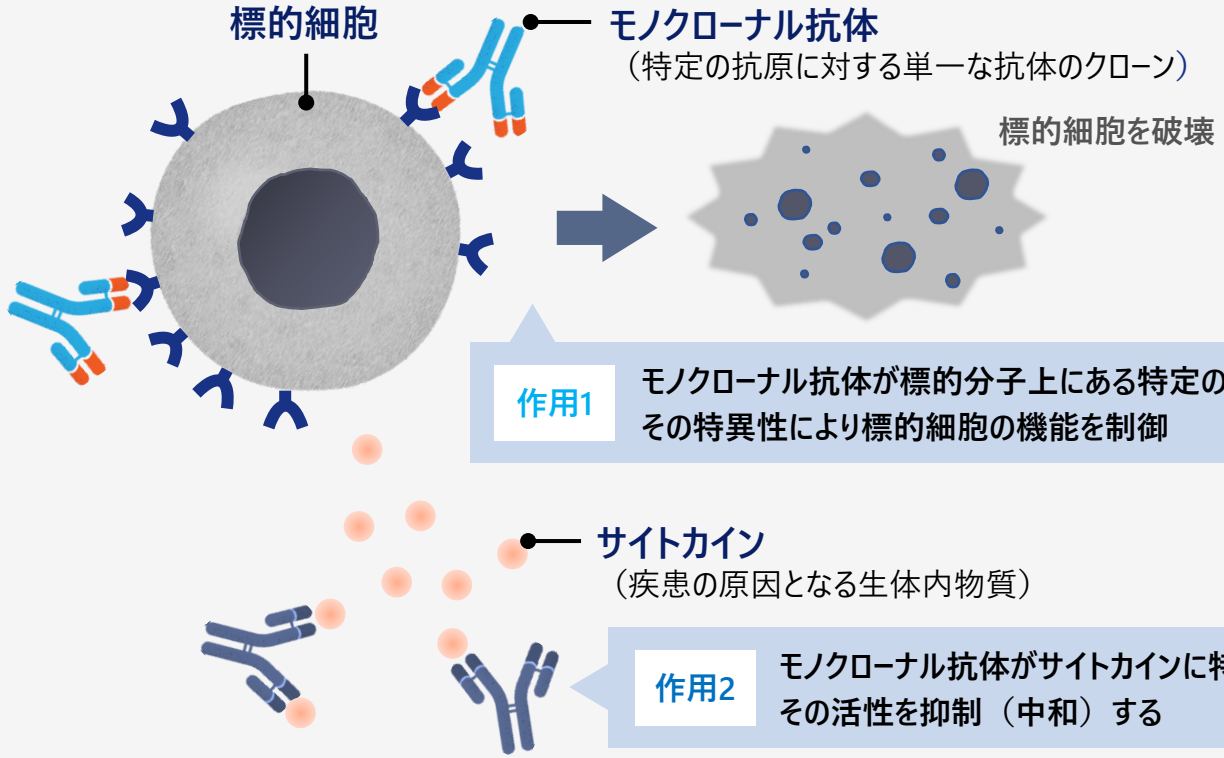


扁桃、臍帯血、末梢血、脾臓、骨髄等様々な組織に存在する
Bリンパ球（白血球の一種）と呼ばれる細胞が抗体を生成

単一の構造を示す抗体を人工的に作製

→ モノクローナル抗体

モノクローナル抗体の作用メカニズム

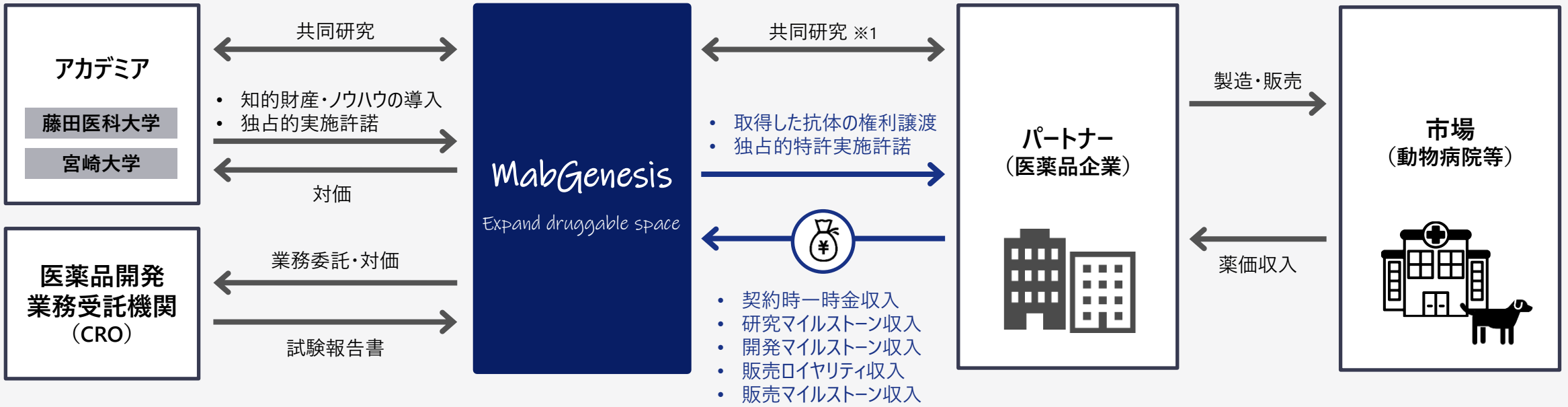


Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

収益フロー

パイプラインの進捗に合わせてパートナーより対価を受領

MabGenesis
Expand druggable space



契約時一時金	アップフロントとも呼ばれ、契約締結時に受領する収入
研究マイルストーン	共同研究の進捗に応じて受領する収入
開発マイルストーン	導出後、研究開発の進展や承認取得に応じて受領する収入
販売マイルストーン	製品の売上金額の一定料率を受領する収入
販売ロイヤリティ	製品の年間売上が所定の金額に達した際に受領する収入

フロー収入

＋

ストック収入

（注1）共同研究型の場合（自社独自での研究開発も行う）
（注2）当社ビジネスモデルは、共同研究型と自社研究型の2種類に分かれます
（注3）2026年 6 月末現在で上市まで進んだ実績はありません

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

02

ビジネスモデル

開発した抗体を製薬企業へ権利譲渡することで収益化

MabGenesis
Expand druggable space

パートナーの要望に基づいて共同研究を行う共同研究型と、当社が独自に設定する標的抗原に対して抗体を取得する自社研究型の2つのビジネスモデルを並行

基礎・探索研究	前臨床段階	臨床段階	承認申請	上市
ターゲットとなる抗原に対して治療メカニズムを有する候補抗体を見出す	取得した抗体の様々な性質を評価し、臨床段階へ進む候補抗体を選択	候補抗体の有効性・安全性を病気の動物を用いて検証	動物用医薬品として製造販売承認を取得	製造・販売開始

共同研究型

MabGenesis
＋
パートナー

共同研究

- 製薬企業と共同研究開発契約を締結
- 対象疾患や標的抗原を設定、抗体開発に向けた共同研究を開始

契約時一時金 | 研究マイルストーン

パートナー

ライセンスアウト（導出）

- 共同研究契約に基づき、製薬企業に開発・製造・販売等の権利を譲渡
- 開発進捗に応じて前臨床段階以降もマイルストーンの受領により着実な収益
- 上市した後には、販売金額に応じたロイヤリティを受領

開発マイルストーン | 販売マイルストーン 販売ロイヤリティ

自社研究型

MabGenesis

自社研究

- 自社にてシーズの探索や抗体開発に向けた研究開発を自社資金で実施
- 技術力を活かし、創薬ニーズの高い高機能抗体を開発できるかがポイント

パートナー

ライセンスアウト（導出）

- 一定の前臨床試験を当社で実施した後に、ニーズがある製薬企業へ導出
- 複数の製薬企業と交渉し、好条件先へ導出
- 導出時に大きなリターンを得られ、上市後のロイヤリティ料率も高く設定可能

契約時一時金 | 開発マイルストーン | 販売マイルストーン 販売ロイヤリティ

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

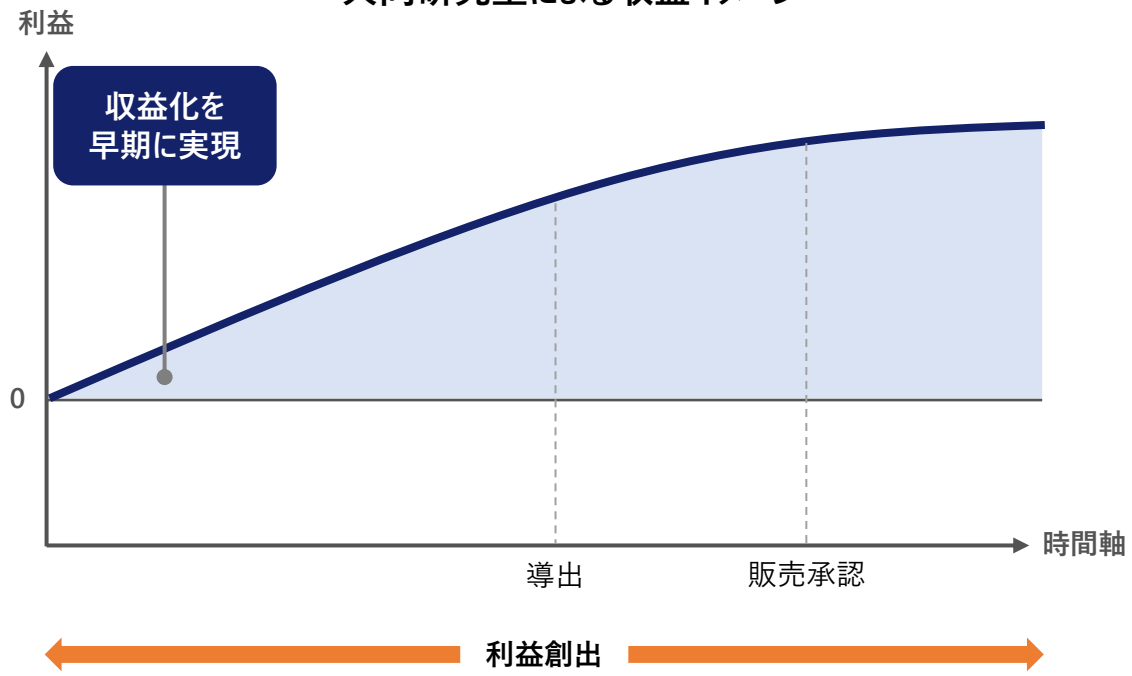
2つのビジネスモデルにより収益構造を安定化・多層化

MabGenesis
Expand druggable space

共同研究中心によるアーリーステージでの収益化を目指しつつも、付加価値の高い自社パイプラインの導出により大きな収入も見込める収益構造

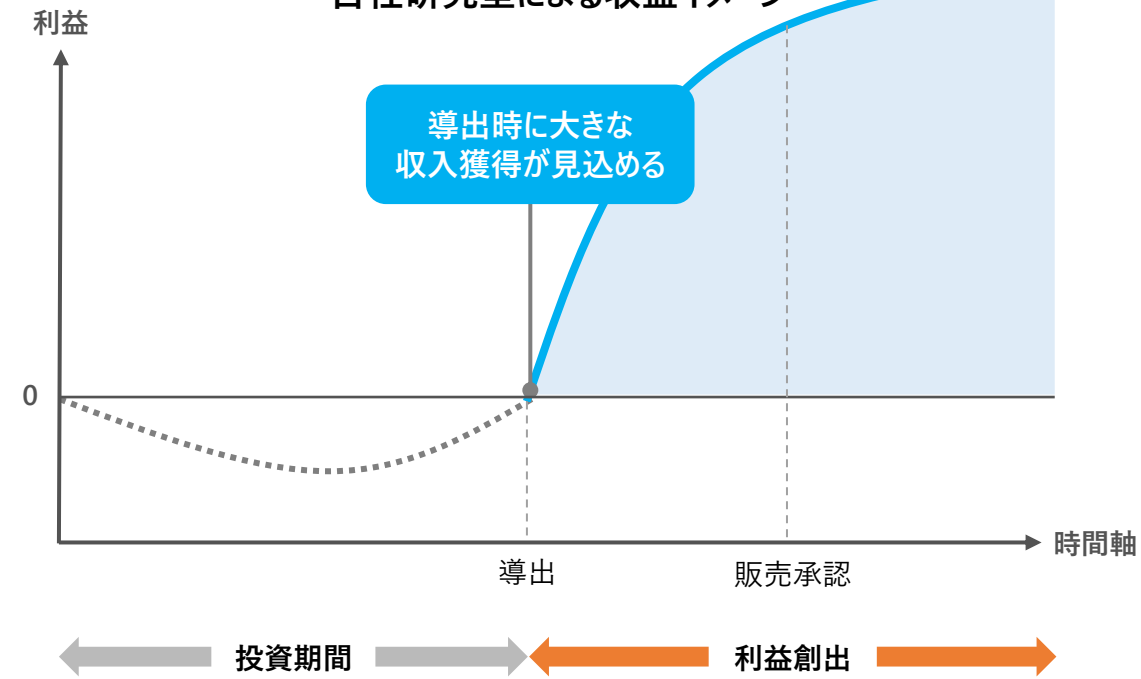
現在は共同研究による引き合いが多く、2026年3月期に黒字化を達成

共同研究型による収益イメージ



研究開発コスト	契約機会	収益性
研究開始時一時金を 受領するため早期収益を達成	現在ニーズが高く、 契約数を積み上げやすい	マイルストーンごとに確実な 収入を獲得

自社研究型による収益イメージ



研究開発コスト	契約機会	収益性
自社にて一定の 研究資金の負担が必要	自社研究パイプライン数に 左右される	導出後大きな契約一時金 及び多くのロイヤリティを獲得

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

世界的な大手製薬会社が開発パートナー

MabGenesis
Expand druggable space

共同研究パイプラインでは世界売上トップのグローバル製薬企業と多数の取引を実現

動物薬業界はトップ10の企業で業界全体の約80%を占めるといわれており、その大半はベンチャー企業の買収又は導入品を開発している状況

売上高順位	企業名	売上高（2024年）	ステータス
1	Zoetis	$9,256百万	
2	MSD Animal Health（Merck）	$5,877百万	2024年より共同研究開発実施中
3	Boehringer Ingelheim Animal Health	€4,749百万	2021年～2023年共同研究実施
4	Elanco	$4,439百万	
5	Ceva Santé Animale	€1,770百万	2021年より共同研究開発実施中 2024年に譲渡契約締結
6	Virbac	€1,397百万	2025年に譲渡契約締結
・・・			
11	共立製薬	約63,200百万円	2023年より共同研究開発実施中

（注）開発パートナーは2026年 8 月末現在

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

パイプラインの特徴

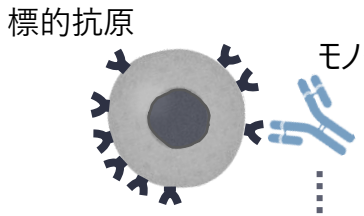
パイプラインの成功確率が高い理由

MabGenesis
Expand druggable space

多様性と機能性に富むファージディスプレイ抗体ライブラリーと高精度の抗体単離技術が当社技術の特徴であり、現在は19件のパイプラインを保有
動物の高齢化に伴って発症する疾患の多くはヒトと共通しており、ヒト用上市医薬品の作用メカニズムを応用可能なため、パイプラインの成功確率が高いと考えられる



標的に対して抗体が作用



成功確率

上市されたヒト用抗体医薬品と同じメカニズムを持つ抗体を取得することで、有効性、安全性が担保されており、開発成功確率に優れている

効率性

当社独自のファージディスプレイ法を用いて、効率的に抗体の発見が可能

ヒト用医薬品と同様の作用機序を持つ抗体を開発

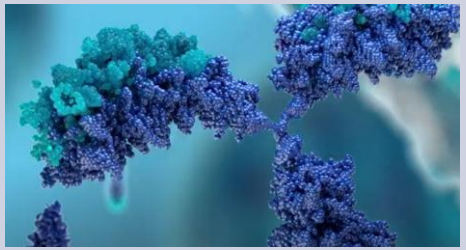
MabGenesis

イヌ・ネコ抗体ライブラリー



生体内で産生される抗体を試験管内に再現

イヌ・ネコモノクローナル抗体



高い活性を示す抗体を単離

ペット用抗体医薬品



抗体の情報をもとに製品を開発

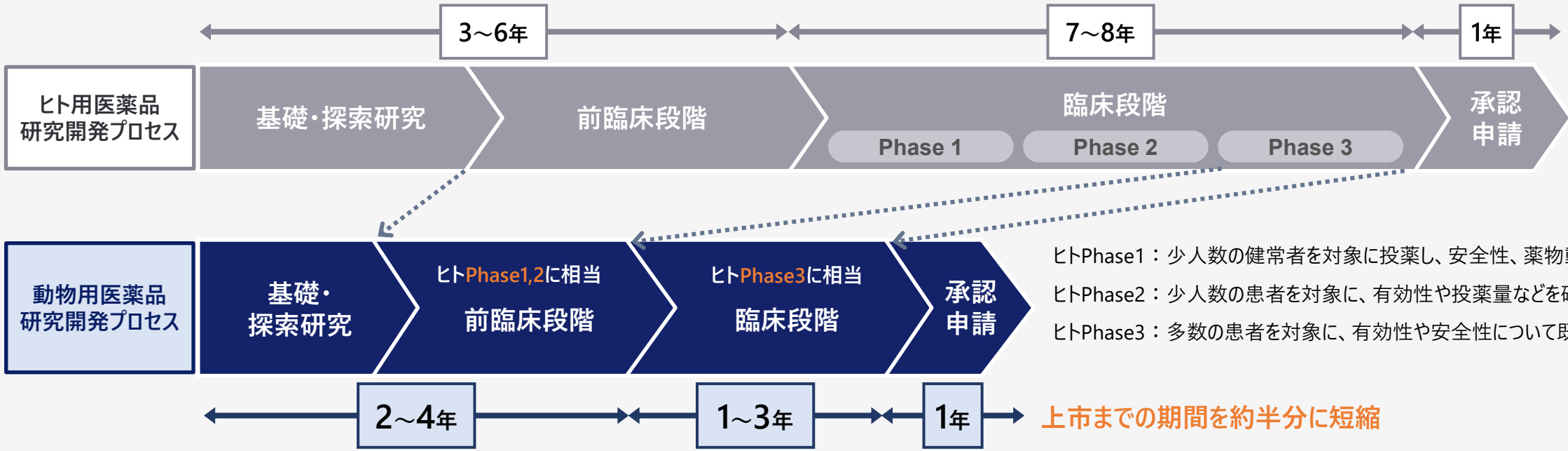
Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

ペット用抗体薬開発の特徴

ペット用医薬品は短期間での上市が可能

MabGenesis
Expand druggable space

前臨床段階において対象動物を用いた安全性・有効性試験を実施し、医薬品としてのコンセプト証明（POC）が可能であるため、臨床段階では検証的試験を1～2本実施すれば良く、短期間で完了する



ヒトPhase1：少人数の健常者を対象に投薬し、安全性、薬物動態について確認
ヒトPhase2：少人数の患者を対象に、有効性や投薬量などを確認
ヒトPhase3：多数の患者を対象に、有効性や安全性について既存薬と比較、検証

上市までの期間を約半分に短縮

研究開発プロセスの特徴

- ✓ 動物とヒトで疾患メカニズム（標的抗原）の多くは共通しており、**ヒトで安全性・有効性が検証された疾患メカニズムの応用が可能**
- ✓ ヒト用医薬品では臨床試験失敗の最大原因となる有効性の検証をP2試験で実施しなければならないが、動物用医薬品の場合は**前臨床段階で対象動物を用いて探索的有効性試験の実施が可能**
- ✓ 動物用医薬品の開発は前臨床試験段階まではヒトとほぼ共通するが、臨床試験については**有効性・安全性を担保できる1つ以上の検証的試験によって製造販売申請が可能**

出典： Clinical Trials of Veterinary Medications Differ From Drugs for Human Use 2022, Volume 88, Pharmacy Times
（注）上市までの期間はあくまで目安であり、実際の研究開発内容や進捗状況により異なる場合があります

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

ペット用抗体薬開発の特徴

ヒト用医薬品とペット用医薬品開発の比較

MabGenesis
Expand druggable space

ペット用医薬品は一般的なヒト用医薬品開発と比較して、新薬開発に必要な期間を4～6年短縮し、コストは90～95％削減可能となる
ヒトで検証された標的分子・疾患メカニズムを動物へ応用することから、高い開発成功確率が見込まれる

	開発期間	開発コスト	開発成功確率	薬価
ヒト用医薬品	長期にわたる開発期間[1]（約10年）	莫大な開発コスト[1]（1,000億円超）	低い成功確率（約10％）	政府や保険会社の価格決定力
動物用医薬品	約5年	約30億円	約70％想定	自由に決定
	前臨床段階で対象動物を用いて試験されていることから臨床段階が大幅短縮され、時間とコスト[2]を削減		上市されたヒト用医薬品と同じメカニズムであり ヒト用バイオシミラー医薬品の成功確率[3]と同等と想定	公定薬価制度がないためメーカーが市場を判断して自由に価格決定

出典：1. 医薬品産業の現状、厚生労働省、2. Animal Health Institute org/approval-regulation-oversight-of-animal-medicines/、3. Biologics: Targets and Therapy 2025:19 125–135
（注）開発期間は、前臨床段階開始から臨床段階終了までの期間を指します。期間やコスト・成功確率は実際の研究開発内容や進捗状況により異なる場合があります

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

CONTENTS

01 | 会社概要

02 | 事業領域

03 | 市場環境

04 | 基盤技術

05 | 事業計画

06 | Appendix



03 Market Conditions

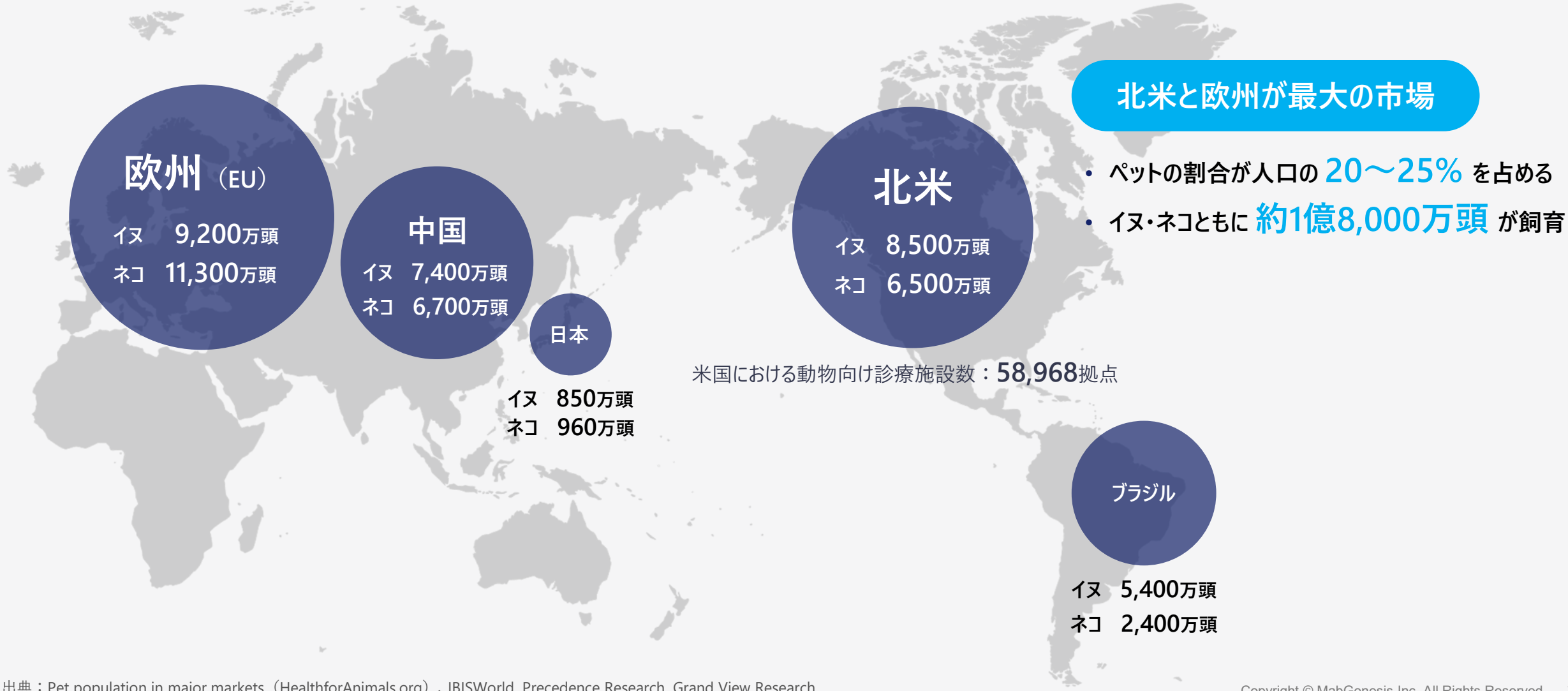
Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

市場環境（ペット飼育頭数）

ペットの飼育頭数は世界的に増加傾向

MabGenesis
Expand druggable space

世界的な人口動態の変化（核家族化、晩婚化）、所得水準の向上等により、イヌ・ネコを中心としたペットの飼育頭数は増加傾向にある



北米と欧州が最大の市場

- ペットの割合が人口の 20～25% を占める
- イヌ・ネコともに 約1億8,000万頭 が飼育

出典：Pet population in major markets（HealthforAnimals.org）、IBISWorld, Precedence Research, Grand View Research

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

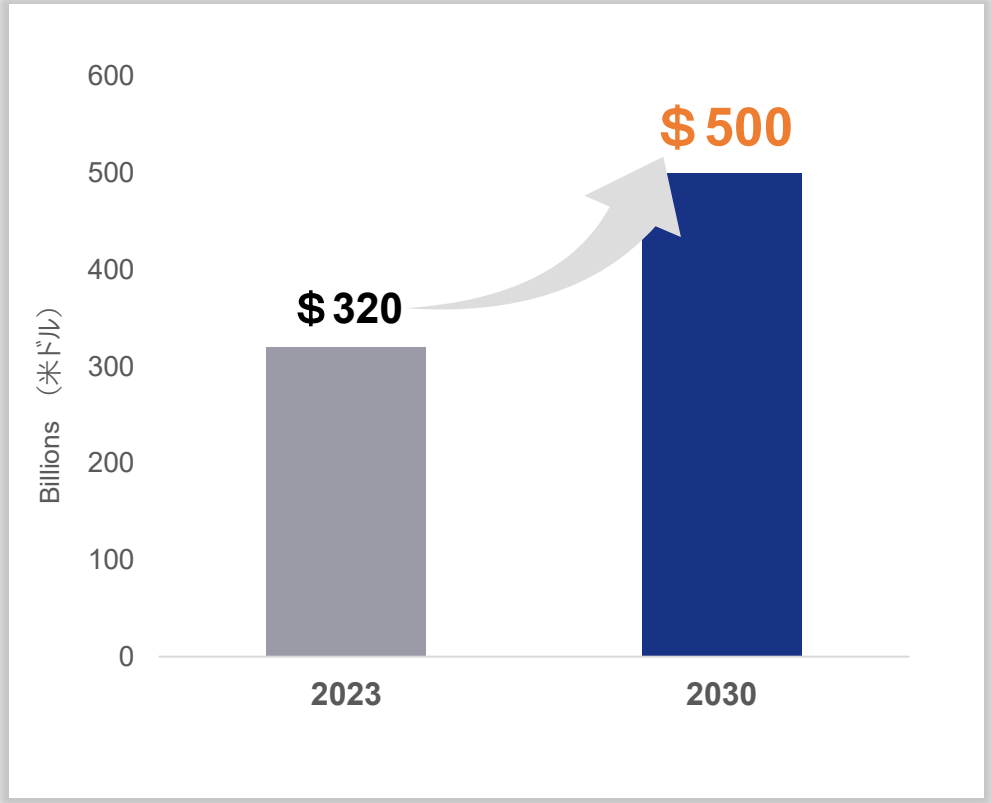
市場環境（ペット用医薬品市場）

ペット長寿化に伴い医薬品市場は拡大

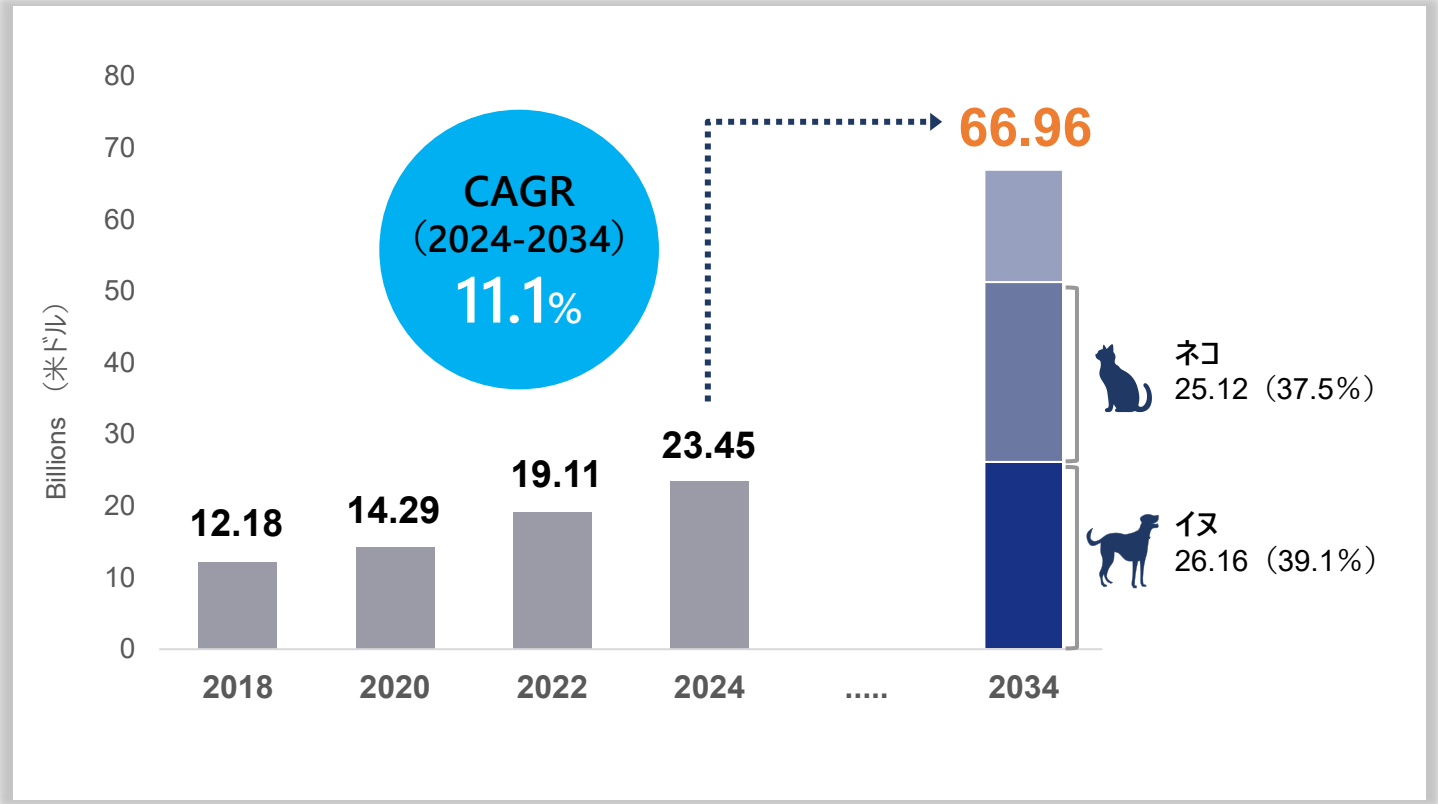
MabGenesis
Expand druggable space

ペットの家族化、長寿化によるケア費用（獣医療、動物用医薬品、フード・サプリ等）の世界市場規模は2030年に5,000億米ドル（約75兆円）に達すると予測
ペット用医薬品市場はペットの長寿化に伴う慢性疾患の増加により大幅拡大（CAGR11.1%）が期待され、2034年には670億米ドル（約10兆円）に達する見込み

ペットケア関連市場規模（単位：10億米ドル）



ペット用医薬品市場（単位：10億米ドル）



出典： Bloomberg, March 24, 2023、Global Companion Animal Medicine Market Size, Grand View Research 2025
（注）世界のペットケア関連市場規模はフード・サプリや獣医療に関わる費用、保険料などを合算した金額

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

ペット用抗体薬のニーズ

ペット市場における抗体医薬品の特性

MabGenesis
Expand druggable space

抗体医薬品は副作用を最小限に抑えつつ治療効果を最大限に引き出すことが可能であり、投薬頻度・方法の観点からも抗体医薬品は動物用として使用しやすい

製造技術の進歩により抗体医薬の製造費用は従来よりも下がっていること、1個体あたりの投与量が少なくヒト用よりも製造コストが低いことから、開発が現実的になってきている

01 有効な治療法がない疾患に対して高い有効性を発揮

- 長寿化に伴い増加している慢性疾患や、ガンなどの治療難易度が高い疾患に対する根本的治療が目的
- 疾患の原因となる標的分子の機能を選択的に制御する仕組み
- 合成化合物を合成した低分子医薬品と比較して高い治療効果

02 生体由来分子としての高い安全性

- 高い特異性を利用して、疾患の原因となる標的分子をピンポイントで狙うことが可能であり、正常な組織を傷つける危険性が低い
- 生体適合性の高い完全イヌ、完全ネコ抗体を利用
- 従来の低分子医薬品と比較して、副作用リスクが低い

03 作用時間が長く飼い主とペットへの負担が少ない

- 現在販売されている動物薬の多くは毎日の投与が基本であり、投薬の難易度が高く、飼い主とペット双方のストレスの原因となる
- 抗体薬は良好な血中安定性により薬効持続性が高く、専門家による月1回程度の投薬頻度で済み、飼い主と動物双方の負担減につながる

04 既存医薬品とほぼ同等の経済的負担

- 近年の抗体薬製造技術の進歩により、製造コストが大幅に削減された
- ヒトと比べて個体当たりの投与量は1/3から1/10
- 月当たりのコストは毎日服用する低分子医薬品等と大きく変わらず、飼い主の経済的な負担はほぼ同等である

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

市場環境（ペット用抗体薬）

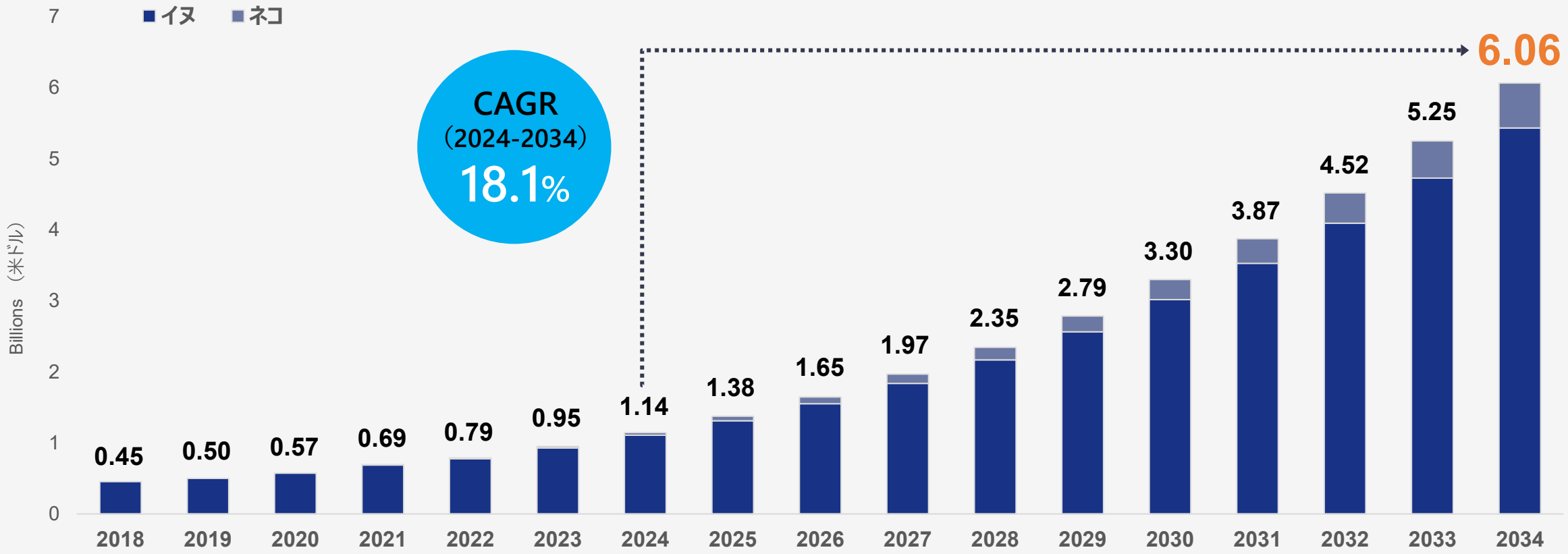
イヌ・ネコを対象とした抗体医薬品市場の成長性

MabGenesis
Expand druggable space

ペット用抗体薬のうち、イヌ・ネコのターゲット市場は2034年までに61億米ドル（約9,150億円）の成長を見込む

今後は動物用医薬品分野においても抗体薬の割合が増加する可能性が高く、CAGRは18.1%でペット用医薬品のCAGRを上回る伸びを示す

イヌ・ネコ用抗体医薬品市場推移（単位：10億米ドル）



出典：Global Veterinary Monoclonal Antibodies Market Estimates & Forecasts by Animal type, Grand View Research 2025

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

ペット用抗体医薬品に対する世界的な注目の高まり

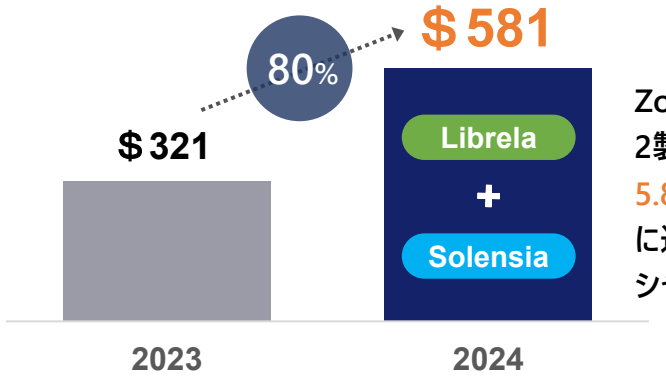
MabGenesis
Expand druggable space

- 2016
  - イヌ用皮膚科治療薬販売承認 Cytopoint
- 2017
  - Zoetis社がNexVet社を買収
- 2020
  - 国内初ペット用創薬ベンチャーとして当社操業開始
- 2021
  - Elanco社がKindredBio社を買収
  - ネコ用変形性関節症治療薬販売承認 Solensia
- 2023
  - Zoetis社がPetMedix社とadivo社を買収
  - イヌ用変形性関節症治療薬販売承認 Librela
  - パルボウイルス感染症治療薬販売承認ガン治療薬販売承認
- 2024
  - Dechra社がInvetx社を買収
- 2026
  - 米Akston Biosciencesが上場申請

ペット用抗体薬は比較的新しい分野であり、米Zoetis社開発のイヌ用皮膚科治療薬（Cytopoint）販売開始をきっかけに、世界的に注目度が高まっている

引用元：Fourth quarter and 2024 full year financial results, Zoeits Inc.、Zoetis Investor Relations, April 2017、Zoetis Inc. 2023 Annual Report、Elanco News, June16, 2021、Business Wire, July18 2024

変形性関節症治療薬（痛み）の売上推移（単位：百万米ドル）



Zoetis社の変形性関節症治療薬2製品の売上総計は承認翌年には5.81億米ドル（前年比80%増）に達しペット用抗体医薬品のポテンシャルの大きさが証明された

動物用抗体医薬スタートアップ買収事例

	買収元	ディール規模	買収時パイプライン
NexVet	Zoetis	8,500万米ドル	・皮膚炎 ・変形性関節症など3製品
Kindred Bio	Elanco	4億4,400万米ドル	・感染症、皮膚炎など4製品
PetMedix	Zoetis	2億1,000万米ドル	・がん、慢性腎疾患など
Invetx	Dechra	5億2,000万米ドル	・皮膚炎、関節症など ・半減期延長技術

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

ペット用抗体薬の現状

ターゲット市場は大半が未開拓のブルーオーシャン

MabGenesis
Expand druggable space

ペットの疾患の多くはヒトと共通しているものの、現時点で**販売承認済みのペット用抗体医薬品は8品のみ**であり、疾患数に対して数少ない状況
これは動物用抗体研究の基盤技術を有する企業が限られていることも影響しており、そのうち4品はいずれもスタートアップから製薬会社へ導出されたものである
今後拡大するべき疾患は多数あり、**ターゲット市場はブルーオーシャン**である

ヒト用抗体医薬品

約220種類

ガン治療領域（悪性リンパ腫・白血病など）
自己免疫疾患（関節リウマチなど）
神経疾患（アルツハイマー型認知症など）
その他（気管支喘息・感染症など）

8種類 承認済み ペット用抗体医薬品

一般名	販売会社（導入元）	抗体タイプ	対象疾患・効能	承認（FDA, EMA）
Lokivetmab (Cytopoint®)	Zoetis (NexVet)	イヌ化抗IL-31抗体	アトピー性皮膚炎の症状の緩和 アレルギー性皮膚炎の掻痒の緩和	2016年12月
Frunevetmab (Solensia®)	Zoetis (NexVet)	ネコ化抗NGF抗体	変形性関節症に伴う疼痛の緩和	2021年1月
Bedinvetmab (Librela®)	Zoetis (NexVet)	イヌ化抗NGF抗体	変形性関節症に伴う疼痛の緩和	2023年5月
Trutect (Anivovetmab™)	Elanco (Kindred Bio)	ラットイヌキメラ抗体	パルボウイルス感染症	2023年5月*
Gilvetmab	Merck	イヌ化抗PD-L1抗体	がん（肥満細胞腫、メラノーマ）	2023年7月*
Izenivetmab (Lenivia®)	Zoetis	長期間（3ヶ月）作用型 イヌ化抗NGF抗体	変形性関節症に伴う疼痛の緩和	2025年10月†
Relfovetmab (Portela®)	Zoetis	長期間（3ヶ月）作用型 ネコ化抗NGF抗体	変形性関節症に伴う疼痛の緩和	2025年10月†
Tirnovetmab (Befrena™)	Elanco	長期間（2ヶ月）作用型 イヌ化抗IL-31抗体	アトピー性皮膚炎 アレルギー性皮膚炎	2025年12月

* 条件付き承認（治験の実施に長時間を要する場合、検証的試験の成績を求めることなく、市販後に必要な調査等を実施することを承認条件として製造販売を承認）
† EMAで承認

（注）ペット用抗体医薬品は2026年4月末時点で販売承認されたものを記載

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

CONTENTS

01 | 会社概要

02 | 事業領域

03 | 市場環境

04 | 基盤技術

05 | 事業計画

06 | Appendix



04 Our Technology

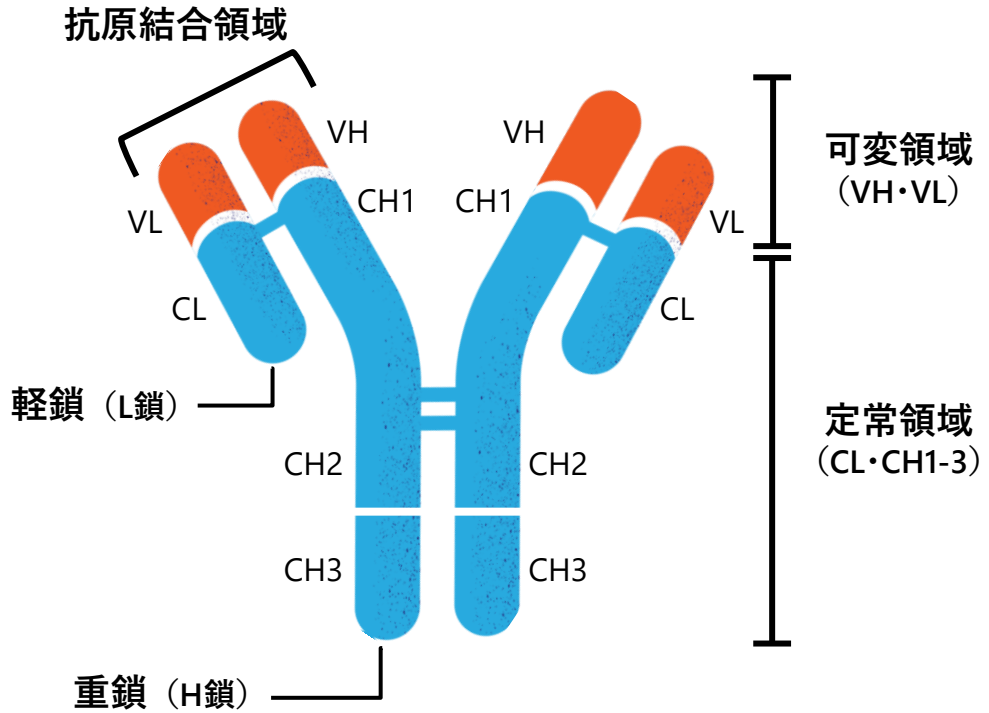
Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

モノクローナル抗体の構造的特徴

MabGenesis
Expand druggable space

抗体は生体の防御反応に使われるタンパク質で、二つの重鎖・軽鎖から構成され、抗体の先端部分を可変領域と呼び、抗体の種類によってアミノ酸配列が異なる
これにより抗体の多様性が生まれ、様々な種類の標的分子（病原体やウイルスなど）に特異的に結合可能となる

抗体の基礎構造



可変領域

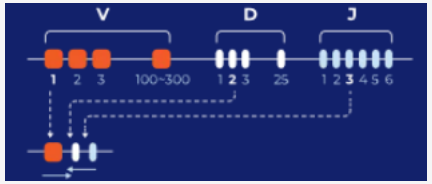
構造（アミノ酸配列）の違いが抗体の多様性の源泉であり、
この多様性が様々な抗原との特異的な結合を可能にする

抗原結合領域

重鎖可変領域と軽鎖可変領域に各3箇所ずつあり、この領域の
アミノ酸配列が多様性を示すことで抗体の個性が決まる

定常領域

抗体の間で比較的アミノ酸配列が類似している領域で、その機能に
よりCL及びCH1からCH3に区分される



独自の可変領域増幅及び重鎖・軽鎖の最適組み合わせ技術とノウハウを保有

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

抗体取得技術の特徴

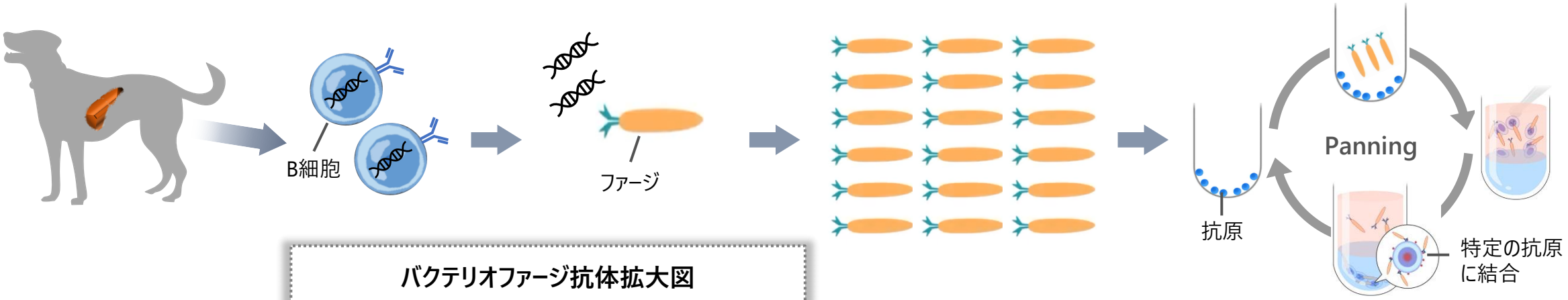
ファージディスプレイ法による抗体取得技術

MabGenesis
Expand druggable space

ファージディスプレイ法はバクテリオファージ（ファージ）に人為的に抗体を発現させる技術であり、多くのヒト用抗体医薬品の創製に貢献実績がある技術

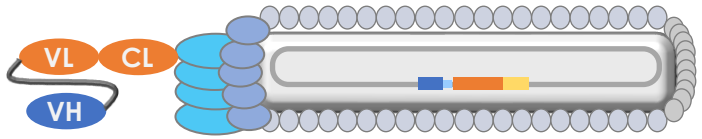
標的動物（イヌ・ネコ）の抗体遺伝子を組み込んでファージディスプレイ抗体ライブラリー（多様な抗体を外膜にディスプレイしているファージの集合体）を作製し、抗体をスクリーニングして釣り出す仕組み

B細胞を抽出 ▶ **抗体遺伝子を単離** ▶ **遺伝子をファージへ導入** ▶ **ファージ抗体ライブラリーを作製** ▶ **抗原を用いて目的の抗体を単離**



- 免疫（動物実験）が不要なため抗原性が低い自己抗原も標的となる
- 致死性の高い毒素やウイルスに対する抗体作製にも有用

バクテリオファージ抗体拡大図



バクテリオファージ（特定の細菌に感染して菌体内で増殖するウイルス）の表面に抗体遺伝子の断面を提示したもの

- 膨大な多様性を示す抗体遺伝子群（＞10億）を網羅的に増幅、単離
- ライブラリー作製は抗体を構成する軽鎖と重鎖を1分子ずつ組み込む必要があり、最も難しい技術の一つ

- 生きた細胞の表面上に発現する分子に対する抗体を直接選別する技術など、様々なスクリーニングが可能
- 低コストかつ短期間で、効率良く目的とする抗体を単離

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

ファージディスプレイ法における課題

従来法では医薬品レベルの高品質抗体は取得困難

MabGenesis
Expand druggable space

ファージディスプレイ法はメリットも多いものの、高品質のファージディスプレイ抗体ライブラリーの作製ハードルは高く、ヒト用抗体医薬の分野でも一部の企業のみが上市に成功している状況

従来方法ではライブラリーに含まれる抗体の機能性・多様性に劣り、医薬品となるような良い抗体が取れないと考えられていた

ファージディスプレイ法に対する従来の捉えられ方

抗体の品質に劣る

免疫による抗体の親和性成熟（いわゆる抗体の進化）を介さないナイーブな抗体集団でファージディスプレイ抗体ライブラリーを作っても良い抗体は存在しない

機能性に劣りやすい

ファージディスプレイ抗体ライブラリーでは軽鎖と重鎖がランダムに組み合わされるため機能性に劣り、医薬品となるような良い抗体が取れない

従来方法における主要課題

欠損抗体（ジャンク）が多い

抗原結合領域CDRに人工的なアミノ酸配列を組み込んだ合成ライブラリーは、機能を持たない欠損抗体を持つファージが多量に含まれ、スクリーニングの足かせとなる

同一種類の抗体への偏り

従来のライブラリー作製技術では抗体遺伝子増幅の過程で増えやすい抗体が多くなり、増えにくい抗体が脱落することにより、抗体の種類に偏りが生じることが多い
→結果的にユニークな抗体を取り出すのが困難

＋

高品質ライブラリー作製は困難

ファージディスプレイ抗体ライブラリーの作製方法は門外不出の技術であり、高親和性、高特異性、高機能性抗体の取得は難しかった

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

当社のコアテクノロジー

機能性に優れた世界最高品質のMOURAライブラリー

MabGenesis
Expand druggable space

従来の弱点を解決し、多様性・機能性に優れた抗体を含む唯一無二のファージディスプレイ抗体ライブラリー（MOURAライブラリー）を保有

個体が保有する抗体を網羅するように作製したものであり、取得されるモノクローナル抗体は生体内で産生される抗体に等しい

当社独占技術

宮崎大学・藤田医科大学が開発・確立した技術を応用

- ライブラリー作製のもとなるB細胞の工夫
- 抗体遺伝子取得法の工夫

MOURA Library

高機能性

独自のライブラリー設計により、ジャンク抗体や重複抗体の少ない高品質の抗体ライブラリー

目的の抗体をスクリーニングしやすく、研究効率を向上

高親和性

目的の抗原を特異的に認識し、結合相互が強い抗体

高性能の抗体により、医薬品開発成功の可能性を高める

多様性

イヌやネコでは約10億種類、ヒトでは約100億種類を超す生体が保有する抗体の多様性を具現化

網羅性が高く、様々な標的分子に対する抗体取得を可能に

安全性

動物の生体内で産生されている抗体そのものを医薬品に応用

生体適合性が高く、安全性に優れた完全イヌ型・完全ネコ型抗体

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

04

MOURAライブラリーの種類

複数の動物種において実用的なライブラリーを展開

MabGenesis
Expand druggable space

多くの抗体取得に成功した当社保有のヒトMOURA抗体ライブラリーの設計思想を踏襲し、複数の動物種における抗体ライブラリーを展開

当社のライブラリーから取得された抗体は完全イヌ型、完全ネコ型で生体適合性に優れるため、高い安全性と有効性を発揮する抗体医薬品開発が期待される

cMOURA Library

イヌ抗体ライブラリー



- 世界最大級の網羅性と機能性を誇る抗体ライブラリー
- 完全イヌ型抗体の作製が可能

fMOURA Library

ネコ抗体ライブラリー



- 世界最大級の網羅性と機能性を誇る抗体ライブラリー
- 完全ネコ型抗体の作製が可能

cVHH MOURA Library

ラクダVHH抗体ライブラリー
（イヌ用及びネコ用治療抗体に応用）



- 世界最大の網羅性
- 小型、物理的安定性（温度、pH等）に優れる
- Bispecific抗体、抗体薬剤複合体等への応用が容易
- 低免疫原性のため、イヌ、ネコ等の治療用抗体に応用可能

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

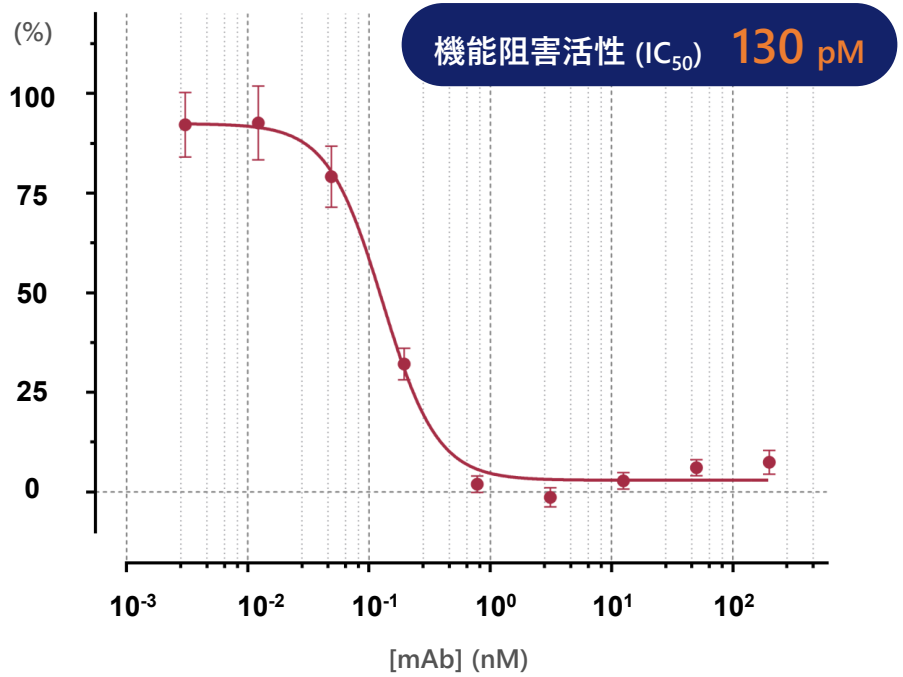
MOURAライブラリーの実績

高い機能性・親和性を示す抗体取得を実現

MabGenesis
Expand druggable space

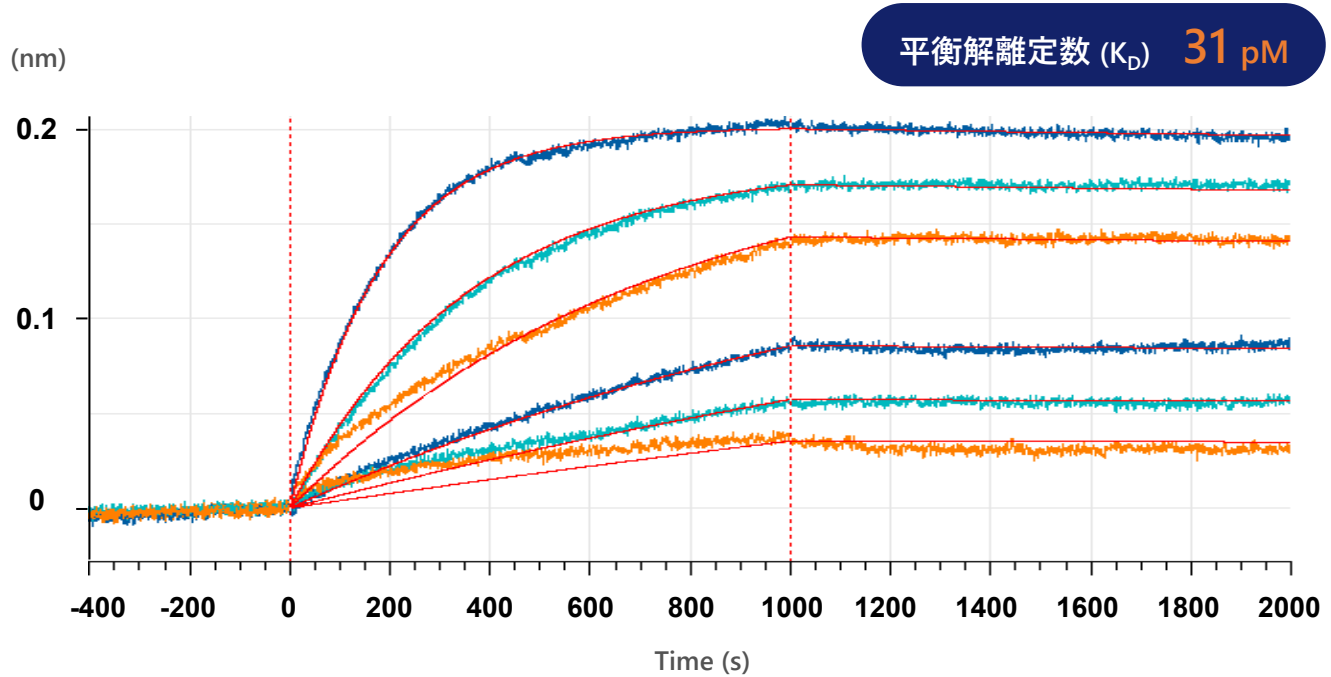
イヌ及びネコMOURA抗体ライブラリーから取得した抗体は機能性及び親和性を評価する試験において、抗体医薬品として開発可能なレベルの数値を示した

機能阻害評価試験



抗体医薬品として十分な薬効を示すと考えられる、
pM (ピコモル) レベルの機能阻害活性を示した

分子間相互作用（親和性）測定



平衡解離定数がpM (ピコモル) レベルと非常に強い親和性を示した

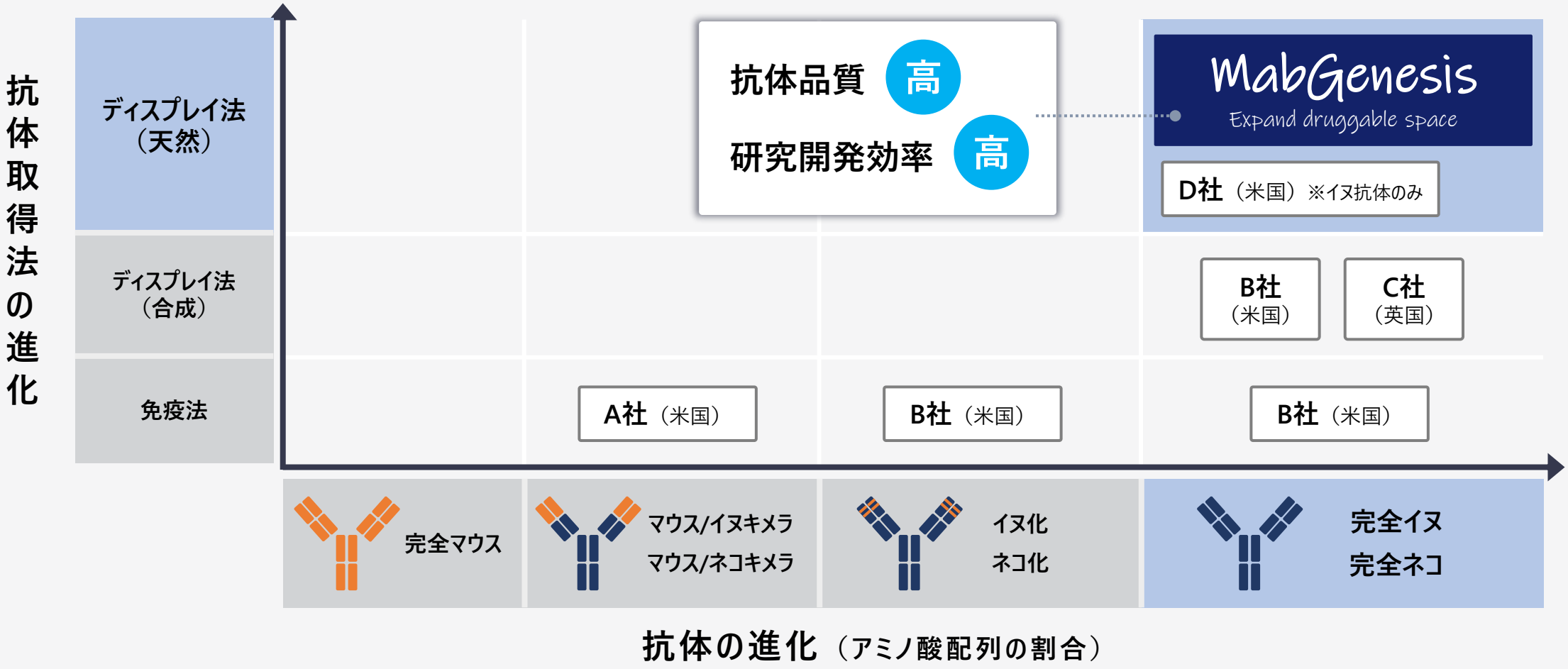
Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

競合状況

高度な技術的ポジショニングを確立

MabGenesis
Expand druggable space

国内上場企業では動物用抗体の研究開発を手掛ける企業は存在せず、競合の多くは欧米のスタートアップ企業である
品質の高い完全イヌ・完全ネコ抗体を取得できるユニークな技術ポジショニングを確立



（注）天然抗体は生体が保有している抗体を意味し、合成抗体は人工的に作り出した抗体を意味する

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

CONTENTS

01 | 会社概要

02 | 事業領域

03 | 市場環境

04 | 基盤技術

05 | 事業計画

06 | Appendix

05 Business Progress

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

共同研究及び自社研究パイプラインの進捗状況　1/2

MabGenesis
Expand druggable space

ヒト臨床段階Phase1, 2に相当する前臨床段階に7件のパイプラインがあり、そのうち4件は導出済み、その他12件のうち10件は国内外の大手動物医薬品企業と共同研究が進行中

パイプラインの状況−1

動物種	標的分子	市販ヒト医薬品	対象疾患	探索段階		前臨床段階 ヒト臨床段階フェーズ１,２に相当	臨床段階	承認申請	ステータス
				評価系構築 スクリーニング	候補抗体の絞り込み				
イヌ	非開示	有り	慢性炎症疾患			導出			導出済み
ネコ	非開示	有り	慢性炎症疾患			導出			導出済み
ネコ	IL-4 受容体	有り	皮膚疾患 喘息						自社プロジェクト 導出活動中
イヌ	非開示	有り	皮膚疾患			導出			導出済み
イヌ	非開示	有り	リンパ腫			導出			導出済み （日本・アジア）
									導出活動中 （グローバル）
イヌ	IL-23 受容体	有り (IL-23)	慢性腸疾患						自社プロジェクト 導出活動中
イヌ	IL-4 受容体	有り	皮膚疾患						自社プロジェクト
イヌ	非開示	有り	皮膚疾患						共同研究実施中
イヌ	非開示	有り	がん						共同研究実施中

（注） 2026年８月末現在

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

共同研究及び自社研究パイプラインの進捗状況　2/2

MabGenesis
Expand druggable space

パイプラインの状況 −2

動物種	標的分子	市販ヒト医薬品	対象疾患	探索段階		前臨床段階 ヒト臨床段階フェーズ１,２に相当	臨床段階	承認申請	ステータス
				評価系構築 スクリーニング	候補抗体の絞り込み				
イヌ	IL-23p19	有り	慢性腸疾患						自社プロジェクト
ネコ	非開示	開発中	慢性疼痛						共同研究実施中
イヌ	非開示	開発中	慢性疼痛						共同研究実施中
ネコ	非開示	有り	皮膚疾患						共同研究実施中
ネコ	非開示	開発中	慢性腎疾患						共同研究実施中
ネコ	非開示	低分子	慢性腎疾患						共同研究実施中
イヌ	非開示	フェーズ３開発中	皮膚疾患						共同研究実施中
イヌ	非開示	開発中	皮膚疾患						共同研究実施中
イヌ	非開示	有り	皮膚疾患						共同研究実施中
ヒト	非開示	無し	すい臓がん						共同研究実施中

（注） 2026年８月末現在

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

長寿化に伴うペットの慢性疾患発生率とマーケットポテンシャル

MabGenesis
Expand druggable space

現在の当社パイプラインの対象疾患は、完治できる薬が現時点で存在せず、いずれも発生率が高いことから高い需要が見込まれる

皮膚疾患

想定市場規模
約129.6億米ドル

15~20% のイヌが
アトピー性皮膚炎 を発症

約1億8,000万頭（飼育頭数） × 15%（罹患率） × 20%（受診率） × 2,400米ドル（年間費用）

罹患率：(2024) Veterinary medicine:: Research and Reports

腎疾患

想定市場規模
約60.5億米ドル

15歳以上のネコの 70% が
慢性腎疾患（CKD） を発症

約1億8,000万頭（飼育頭数） × 1/10（15歳以上） × 70%（罹患率） × 20%（受診率） × 2,400米ドル（年間費用）

罹患率：RIS（International Renal Interest Society）

関節疾患

想定市場規模
約172.8億米ドル

20~30% のイヌが
変形性関節症（関節痛） を発症

約1億8,000万頭（飼育頭数） × 20%（罹患率） × 20%（受診率） × 2,400米ドル（年間費用）

罹患率：（2010）Journal of the American Veterinary Medical Association

ガン領域

想定市場規模
約216.0億米ドル

米国では毎年 600万頭 のイヌが **ガン** と診断
一生涯のうち 4頭に1頭 が **ガン** を発症

約1億8,000万頭（飼育頭数） × 25%（罹患率） × 20%（受診率） × 2,400米ドル（年間費用）

罹患率：American Veterinary Medical Association, Cancer in Pets

（注1）各マーケットサイズは外部調査資料等を参照し、当社が推計したものであり、実際の市場規模とは大きく異なる可能性があります
（注2）想定市場規模：当社の主要マーケットである北米・欧州の飼育頭数（イヌ・ネコそれぞれ約1億8,000万頭として計算） x 罹患率 x 受診率（20%） x 年間費用（月200米ドルとして年間2,400米ドル）

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

現在のパイプラインにおける潜在収益

MabGenesis
Expand druggable space

パイプラインが計画通りに進捗した場合における潜在的な収益価値（契約時一時金・研究開発マイルストーン）総額は約86億円
これに加えて、上市後には一定の製品売上高を達成した際の販売マイルストーン及び販売金額に応じた数%のロイヤリティ収入獲得を見込む

受領済み収益総額

契約時一時金
＋
研究マイルストーン

5.8 億円

2026年6月末現在

潜在収益（見込金額）

契約時一時金・研究マイルストーン

新規パイプラインによる拡大余地

最大総額
19.1 億円

共同研究契約時・導出時に受領予定

開発マイルストーン

新規パイプラインによる拡大余地

最大総額
66.6 億円

抗体研究・医薬品開発の進捗に応じて受領予定

販売マイルストーン・ロイヤリティ

販売金額増加
新規パイプラインによる拡大余地

想定額
845 億円

上市後の販売金額に応じて受領予定

（注1）契約時一時金・開発マイルストーンの最大総額は、2026年 6 月末現在の契約済み16件（稼働中14件及び予約済み 2 件）のパイプラインを全て達成した場合の最大受領可能額
（注2）販売ロイヤリティは販売開始から15年間（ピークセールス到達から10年間）にて試算
（注3）パイプラインの進捗状況・今後の市場環境によって変化する場合があり、今後の業績予想に直結するものではありません

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

業績推移

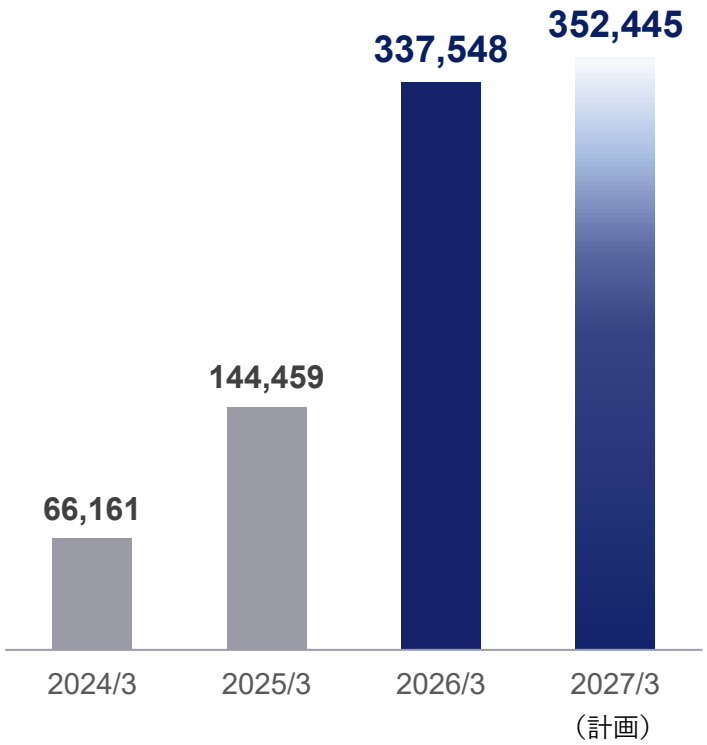
前期は黒字化を達成

MabGenesis
Expand druggable space

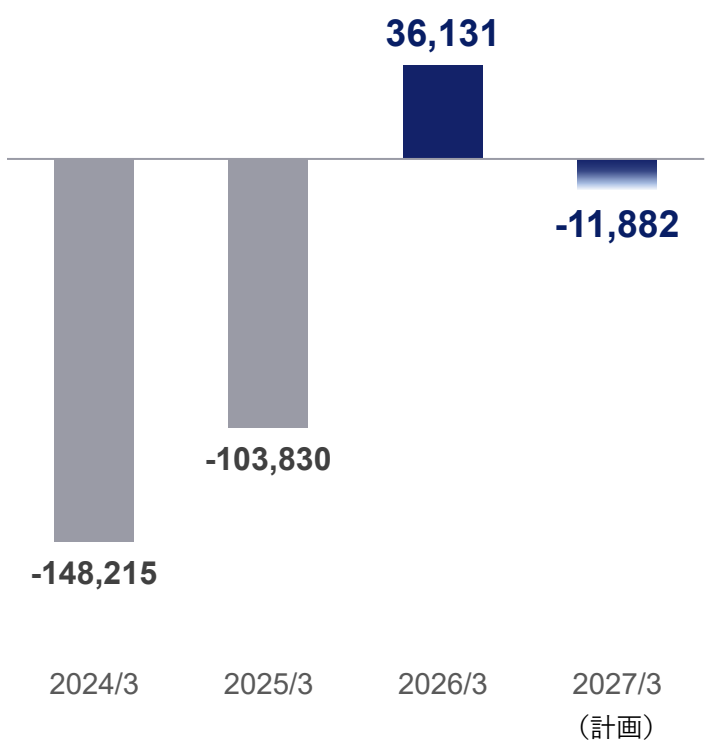
2026年3月期は共同研究パイプラインの一時金・マイルストーン受領により黒字達成

2027年3月期は上場関連費用が影響し一時的に減益予想であるものの、ビジネスモデルの特性上コストを抑えて研究開発が可能であることから、2028年以降は継続的な黒字を目指す

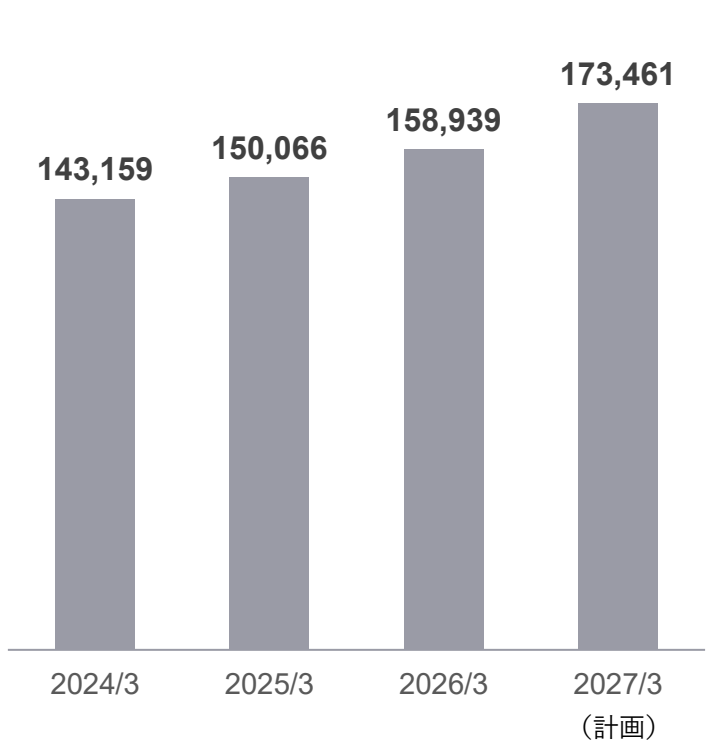
売上高



当期純利益



研究開発費



Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

05

中長期ビジョン

早期上市によりペット用抗体薬の可能性を切り開く

ヒトとペットの
健やかで幸せな
生活の実現に向けて

1製品に依存しないリスク分散型のビジネスモデルや「短期開発」「低コスト」「高品質」「高効率」という特徴を活かし、
パイプライン数の増加及び導出数を拡大させ、中長期的には2030年頃の上市を目指す

拡大期
（2026年まで）

パイプライン売上の成立・拡大

- 共同研究プロジェクト数の積上げ
- 各パイプラインの着実な進捗による売上拡大
- メディカルニーズに合わせた自社パイプライン創出

発展期
（2027年～）

高付加価値の自社パイプライン導出

- 共同研究マイルストーン達成と早期導出による計画達成及び確実な黒字化
- 自社パイプラインの開発進展、導出による大幅増益の実現

安定期
（2030年～）

パイプライン製品化による収益拡大

- 開発薬の販売開始による販売マイルストーン及びロイヤリティの獲得
- パイプライン数の増加及び進展
- 産業動物用抗体事業への領域拡大

成長戦略

国内外の動物用医薬品との提携先拡大及び既存取引先とのパートナーシップ強化によるポートフォリオの拡充
疾患対象動物を用いた初期臨床データの付加による自社パイプライン価値の最大化
最新機器の導入やAI活用による効率化及び成功確率向上及び高度研究人材獲得による抗体取得技術の向上

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

Appendix.

損益計算書

MabGenesis
Expand druggable space

（千円）	2026年3月期 実績	2027年3月期1Q 実績	2027年3月期2Q 計画	2027年3月期 計画
売上高合計	337,548	41,857	97,379	352,445
売上原価	1,421	–	–	–
売上総利益	336,127	41,857	97,379	352,445
販管費及び一般管理費	300,250	79,056	166,563	357,935
営業利益／損失	35,876	▲37,198	▲69,184	▲5,490
営業外収益	1,309	304	0	0
営業外費用	750	–	3,405	6,089
経常利益／損失	36,436	▲36,894	▲72,588	▲11,578
法人税等	304	76	152	304
当期純利益／損失	36,131	▲36,970	▲72,740	▲11,882

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

06 貸借対照表

MabGenesis
Expand druggable space

（千円）	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期 1Q
流動資産	553,883	536,076	500,370
現金・預金	485,071	451,906	431,349
売掛金	43,761	78,852	39,233
前渡金	－	2,849	2,849
前払費用	1,967	2,318	23,263
その他	23,083	149	3,675
固定資産	21,129	48,631	43,721
有形固定資産	20,618	47,900	43,041
無形固定資産	345	495	455
投資その他資産	165	235	223
資産合計	575,013	584,708	544,091

（千円）	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期 1Q
流動負債	42,487	15,716	12,068
未払金	10,386	9,673	7,127
未払費用	1,529	1,566	1,802
未払法人税等	304	304	76
前受金	29,111	2,775	1,241
預り金	1,155	1,271	1,820
その他	－	124	－
固定負債	467	801	803
資産除去債務	467	801	803
負債合計	42,954	16,518	12,871
純資産合計	532,058	568,190	531,219
資本金	90,000	90,000	90,000
資本剰余金	545,888	545,888	545,888
利益剰余金	△103,824	△67,698	△104,668
負債純資産合計	575,013	584,708	544,091

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

上場目的・資金使途

IPOの目的

当社は上場により資金調達の多様化を図るとともに、グロース市場上場に伴う公募増資金を主に研究開発体制の強化のための設備資金に充当することで、更なる事業拡大・高い成長を実現したいと考えております。また、上場により社会的信用・知名度の向上による事業分野での競争力強化、優秀な人材の採用・流出阻止を図り、経営基盤を強化することで株主、従業員、取引先、地域社会などステークホルダーに対する社会的責任を果たしたいと考えております。

調達資金の使途

項目	予定金額（百万円）
設備資金	120
研究開発費	542
運転資金	273
合計	935

資金使途の詳細

1. 抗体取得の効率化に寄与する実験機材の導入
（フローサイトメトリー・抗体の親和性を測定する機器・セルサイトソーター等）

2. 自社プロジェクトにおけるパイプライン価値や、上市確率向上のための小規模薬効確認臨床研究の実施に関わる費用
（抗体作製費用・外部委託費用・AIシステム費用等）

3. 事業拡大に向けた顧客開拓費用
（海外イベント参加費等）

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

06 用語解説　1/2

MabGenesis
Expand druggable space

用　　語	説　　明
抗体医薬品	私たちの体内に存在する生体防御物質（タンパク質）である抗体を、遺伝子組み換え技術で人工的に製造したバイオ医薬品。創薬標的にピンポイントで作用させることができるため、高い治療効果と副作用の軽減が期待できる
モノクローナル抗体	数億種類存在する抗体群から選び出した単一種類の抗体
ファージディスプレイ抗体技術	細菌に感染するウイルスであるファージに抗体分子を表出する技術。標的分子と反応させることで、特異的に結合する抗体クローンを見つけ出すことができる。動物を抗原で免疫して抗体を取得するハイブリドーマ法と比較して種特異的な抗体を直接取得できる利点がある一方、コストが高く、抗体ライブラリー作製に熟練が必要
サイトカイン	免疫細胞などから分泌される細胞間の情報伝達を担うタンパク質であり、免疫や炎症反応を引き起こすような働きをする
Bリンパ球	抗体を産生する細胞、白血球の一種であり、液性免疫を担う
標的抗原	抗体の標的となる物質（抗原）
特異性	抗体が特定の抗原にのみ結合する性質
導出	成果物を他社へライセンス供与または権利譲渡すること
抗体ライブラリー	ある特定の手段あるいは目的を以て試験管内で作製された抗体遺伝子の集合
抗体単離技術	目的とする抗体を選択的に取り出す技術
コンセプト立証	目的とする医薬品の安全性、有効性、持続性等の基本的な特性（コンセプト）を証明すること
バイオシミラー	バイオ医薬類似後続品
探索的有効性試験	開発早期段階において、開発品の有効性の兆候（シグナル）を探索・確認するために実施される試験のことで、仮説の検証や、より大規模な試験へ進むかどうかの意思決定の基準となる
前臨床試験	開発中の新薬候補物質や医療機器について、ヒト、イヌ、ネコ等を対象とした臨床試験（治験）を実施する前に、実験動物や培養細胞などを用いて有効性（薬理作用）や安全性（毒性、副作用など）を評価・検証する試験をいう

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

06 用語解説　2/2

MabGenesis
Expand druggable space

用　　語	説　　明
低分子医薬品	化学合成によって製造される分子量が小さい医薬品
ファージ	バクテリアに感染するウイルスの一種
抗原性	抗体の産生を促しやすい性質
親和性	抗原と抗体の結合の強さ
抗体薬剤複合体	がん治療におけるバイオ医薬品であり、抗体と抗がん剤を結合させ、がん細胞に薬剤を届ける標的治療薬
低免疫原性	体内での免疫反応を誘発する能力が弱いことを指し、治療薬の安全性に関する指標
膜タンパク質	細胞膜に存在するタンパク質
ディスプレイ法（天然）	抗体など目的とするタンパク質等の遺伝子を生体から取り出し、ファージに表出させる方法
ディスプレイ法（合成）	抗体など目的とするタンパク質等の遺伝子を人工的に合成し、ファージに表出させる方法
免疫法	実験動物に抗原を投与してその抗体を取得する方法
キメラ抗体	マウスとヒト、マウスとイヌ等、異なる種の抗体のパーツを組み合わせ作製された抗体
完全イヌ・ネコ抗体	完全に100%イヌ由来、ネコ由来のパーツから作製された抗体
エピトープ	抗体が結合する抗原の特定部位
平衡解離定数	2つの物質（抗原と抗体）がどのくらい結合しやすいか、または離れやすいかを数値で表した指標
pMレベル	10の-12乗レベルの強い結合で、一般的に薬品として高い有効性が期待できるレベル

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

リスク情報　1/2

事業遂行上の重要なリスク	リスクの概要	発生可能性	影響度	対応策
研究開発の不確実性に関する事項	医薬品の研究開発は、初期の創薬研究から上市に至るまで長期間を要するとともに、上市までに多額の研究開発投資が必要となります。また、有用な薬効を確認できない場合や副作用など安全性への懸念が生じた場合研究開発の延長や中止の判断が行われるなど、研究開発には不確実性が存在します。	中	中	当社は、非臨床試験前の創薬研究を主な業務としており、製薬パートナーが行う非臨床試験以降の開発に係るコストを負担することはありません。また、当社は、現状では開発・上市まで進捗しなくとも短期の一時金、研究支援金、研究マイルストーンの事業収益を計上できるような契約を締結することにより、安定的な業績確保を可能となるようにしております。
競合に関する事項	当社が携わる動物用抗体薬に関する研究開発領域は、急激な市場規模の拡大が見込まれており、欧米を中心にベンチャー企業を含む動物用医薬品の開発を行う製薬会社が参入する可能性があります。	中	中	当社では、早期の上市に向けた研究開発活動を続けており、特許の取得等によって競争優位性の確保に努めております。
収益の変動性に関する事項	当社の収益構造は、現時点では一時金収入が中心です。一時金収入は、契約を想定どおりに締結できなかった場合、また契約締結後でも研究が想定通りに進捗しなかった場合や提携先との研究方針の不一致等により共同研究契約等が解消された場合、当初想定した時期に収益が得られない可能性があります。	中	中	当社では、複数の共同研究プロジェクトを並行して進めることにより、個々のプロジェクトの開発進捗の変動に伴う収益の変動が最小限となるよう努めております。

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.

事業遂行上の重要なリスク	リスクの概要	発生可能性	影響度	対応策
為替変動に関する事項	当社は、海外に拠点を置く複数の企業との取引を行っております。これらの企業とは、外貨建取引を行っているため為替変動リスクにさらされる可能性があります。したがって、急激な為替変動が生じた場合等には、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。	中	中	当社では、海外からの収入は外貨のまま貯蓄し、海外への支払いにはその外貨を当てることで円貨／外貨交換の発生頻度を最小化し、為替変動の影響を受けにくくするよう努めております。
ベンチャーキャピタル等による株式保有・比率について	当社の発行済株式総数に対するベンチャーキャピタル等の所有割合は、本書提出日現在56.9％です。当社の株式公開後、ベンチャーキャピタル等が所有する株式の全部又は一部を売却した場合、株式市場における当社株式の需給バランスが短期的に損なわれ、当社株式の市場価格が低下する可能性があります。 （発生時期：上場後5年後頃まで）	大	中	－
人材への依存に関する事項	何らかの理由により、当社代表取締役新庄勝浩をはじめとする特定の経営陣や責任者等が当社の業務に従事することが困難になった場合には、当社の事業、財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。	中	中	当社では、過度に特定の人物に依存しない組織的な経営体制の強化を進めております。

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.



本資料の取扱いについて

本資料は、MabGenesis株式会社（以下「当社」といいます。）が情報提供のみを目的として作成・開示したものであり、当社の有価証券の買付けまたは売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。

米国、日本国又はそれ以外の一切の法域において、適用法令に基づく登録若しくは届出又はこれらの免除を受けずに、当社の有価証券の募集又は販売を行うことはできません。

本資料に含まれる情報は、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、これを保障するものではありません。
また、本資料に記載された情報は、予告なく変更される可能性があります。

本資料には、当社に関する見通し、計画、目標などの将来に関する記述がなされています。これらの記述には、「予想」、「予測」、「潜在的」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「目指す」、「想定」又は「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事又は状況を説明するその他類似した表現を含みます。これらの将来の見通しに関する記述は、当社が作成時点で入手可能な情報に基づいた仮定であり、不確実性その他の要素を伴います。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は本資料によって明示又は黙認された予測とは著しく異なる場合があります。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提に作成・開示したものであり、本資料に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。

なお、本資料の更新は今後、年度決算の発表時期（毎年5月頃）を目途に開示する予定です。

Copyright © MabGenesis Inc. All Rights Reserved.